

令和6年度 春日保育園における自己点検、自己評価書

本園の保育、教育全般を総合的に評価し、次年度に生かすことを目的にして取り組みました。項目ごとに保育を振り返り、評価を記述しました。ご意見、ご感想などお聞かせください。

自己評価の観点	主な自己点検の内容	保育の振り返り	自己評価
1 専門職として、基本的な心構えを持つている	<ul style="list-style-type: none"> ・心地よい身だしなみ、明るい笑顔、挨拶を心がけている ・自身の健康管理と情緒の安定を心がけている ・研修に参加したり専門書を読むなどして、保育に関わる様々な知識や技能の向上に努めている 	<ul style="list-style-type: none"> ・子ども一人ひとりに挨拶をし、話をよく聞き信頼関係を築くよう心掛けた。 ・職員が率先して笑顔で声のトーンを上げ気味で挨拶するように心掛けることで、子どもからも元気に挨拶を言う姿が見られるようになってきた。 ・保育士自身が健康管理に十分気を付けながら手洗い、うがいを丁寧に行っていきたい。 ・保育の中で困った時は先輩保育士に相談したり、研修や専門書を参考に工夫し進めるようにした。 ・研修や専門書で得た内容を保育に取り入れ、遊びを広げて楽しく進めることができた。 ・研修に参加し学んだことを自分なりにまとめ復命することで、保育に関する知識を高めることができた。 ・困ったことや分からぬことがあった時は、研修で学んだことを参考に調べ、知識を深めるようにした。 	
2 子ども一人ひとりの理解を深め、受容しようと努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの思いを大切にしながら対応している ・子どもが、安心して話せる雰囲気をつくっている ・子どもにわかりやすい温かな言葉遣いや表情で穏やかに話しかけている ・「早くしなさい」とせかす言葉や「だめ」「いけません」等制止や禁止の言葉を不用意に用いないようにしている ・「できない」「やって」など、言ってくる子どもに対して、子どもの状況に対応している 	<p>3歳未満児…スキンシップをしっかりと取り、信頼関係を築くよう心掛けた。自我が芽生え、思いが通らず不機嫌になった時には子どもの思いに寄り添い、少しずつ自分の気持ちをコントロールし、譲ったり順番を守ったりできるよう社会生活のルールを伝えていくようにした。</p> <p>・情緒が不安定な子にはスキンシップを図り、焦らず気長に信頼関係を築くようにした。</p> <p>・保育士間で気になる子の対応策を話し合い、保護者への声掛けのタイミング等を共通理解するよう心掛けた。</p> <p>・子どもの気持ちに寄り添い、安心感を与えるようにした。情緒が不安定な時には、一対一で話を聞くようにした。</p> <p>・一人ひとりの性格や気持ちを汲み取りながら、冷静に声を掛け関わっていく事が大切だと感じた。</p> <p>3歳以上児…子どもが出来なかったことや良くない部分に目が行きがちで感情的に注意してしまうことがあった。良い行動に対して肯定的な声掛けを行い褒める場面を多くしていく。</p> <p>・トラブルが多い子や、すぐに手が出てしまう子に対して、止るだけでなく一対一の時間を設け話を聞くことで、少しずつ思いを言葉にして伝える事ができるようになってきた。思いに寄り添い物事の善悪等を伝えていく。</p> <p>・保育者の思いを押し付けて声掛けや援助をしてしまうことがあったので、子ども一人ひとりの性格等を改めて把握し子どもの思い、状況を受け止めながら保育していきたい。・子どもが自分の思いを言葉に上手くできず、黙ってしまう時には、答えを急がせず、言葉を添え代弁しながら思いを受け止めるようにした。</p> <p>・失敗したくない気持ちから「できない」と訴える子には、一緒に取り組んだり些細なことでも言葉にして褒めることで少しづつ自信に繋がっている姿が見られるようになった。</p>	
3 遊びや生活を通して人間関係が育つように配慮している	<ul style="list-style-type: none"> ・子ども同士の関係をよりよくするような適切な言葉かけをしている ・喧嘩の場面では状況を適切にとらえ、双方の思いを大切に対応している ・年齢に応じた社会的ルールを身につけていくように配慮している ・子どもが保育士の手伝いをしたり、友達を助けたり、協力しあう場を持つようにしている ・子どもの意欲を高めるような遊びの準備や配慮ができるいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・0歳児… 友達と関わってみようとするが、うまくやり取りできない子には、仲立ちをしながら関りを深めるよう心掛けた。 ・1歳児… 噛みつきやひっかきなどのトラブルがあるので、双方の思いを受け止める対応を心掛け、相手の思いを言葉にして伝えるようにした。 ・2歳児… 子ども同士の関りの中で、気持ちが高ぶり言葉が激しくなる時は、落ち着いた環境で冷静に話を聞き、思いを汲み取りながら、相手の思いも伝えるようにした。 ・2歳児… 褒められている友達を見て、自分も「やりたい」「やってみよう」とする子を認め、生活習慣が身に付くようにした。 ・年少児… 遊具をめぐってトラブルになった時は、双方から話を聞き、思いを伝え、言葉でのやり取りの仕方を伝えた。 ・年少児… 運動会、発表会など人前での活動を苦手としている子には、友達の様子を見て少しづつ慣れていくような環境作りをした。子どもそれぞれの思いを受け入れながら行事に参加できるようにした。 ・年中児… 相手の気持ちに気づきずらく自分の思い中心になってしまふ子には、友達と楽しく遊ぶために大切なことを繰り返し伝える事で、視野が広がり相手の言葉にも耳を傾けようとする姿が見られるようになった。 ・年長児… 一人ひとりが意欲的に行動したり、友達との関わりの中で思いやりの気持ちを持って行動できるよう、良い行動を認め褒めたり、シールを使って意欲を高めるようにした。保育士の手伝いを通して協力し合ったり助け合ったり子どもたちのより良い関係ができるような配慮を心掛けた。 	

自己評価の観点	主な自己点検の内容	保育の振り返り 自己評価
4 乳児保育のための環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している	<ul style="list-style-type: none"> 抱いて目を合わせたり、微笑みかけたりしながら、ゆったりと関わっている しぐさや声や動きを介して発する欲求を察知し、タイミングよく応答している 身体を適度に動かす遊びやリズムを伴ったふれあい遊びを十分にしている 	<ul style="list-style-type: none"> 0歳児…抱っこやおんぶで子どもとスキンシップを取り、優しく声を掛けながらゆったりと関わることを大切にした。 0歳児…つかまり立ちや歩行中は、バランスを崩しやすいので危険の無いよう近くで見守りすぐに支えられるように気を付けた。 0歳児…囁語や指差しなどが多くなるので、たくさん話しかけ子どもの気持ちを受け止め、やり取りを楽しむようにした。 1歳児…一対一で抱っこをしながら言葉のやり取りをしたり、ふれあい遊びをした。不安がある子、甘えたい子等、個々の気持ちを受け止め、安心できるように関わった。 1歳児…身の回りのことをやろうをする姿を認め、少し援助し、後は自分でできた達成感や喜びを感じられるように関わった。
5 保護者の支援に努めている	<ul style="list-style-type: none"> 園や家庭での様子を伝え合う中で、子どもの育ちを保護者と共に考え、喜び合うことができている 	<ul style="list-style-type: none"> 連絡アプリを導入し、日々の予定、献立など保護者が手軽に確認できるようにした。 子どもが身の回りのことを自分でやってみようとする気持ちを持てるよう、家庭と協力し見守ったり、やり方を丁寧に伝え少しづつできるようになった時は保護者と共に喜び合うようにした。 保護者からの連絡事項を担任保育士間で共有するよう心掛けた。 行事に向けて取り組む様子や成長が見られた姿を連絡帳や送迎時に伝え、家庭での会話や励ましのきっかけ作りをした。 成長している姿、頑張ろうとしている姿、進級に向けて張り切っている姿を伝え、保護者と一緒に喜び、家庭でも褒めてもらうように声をかけ、自信へと繋げていくようにした。 友だちとの関係について不安な思いをしている子は、保護者とも連携し援助方法を考えるようにした。 保育園での子どもの様子を家庭に知ってもらい、保育園と家庭で関わり方の理解を深めていくように努めた。 流行している感染症について情報を共有し、子どもに体調の変化が見られた時は連絡し、重症化や流行を防ぐようにした。
6 職員間の連携が取れている	<ul style="list-style-type: none"> 自分の思いを分かりやすく伝えたり、相手の意見を聞くように努めている 保育について、報告、連絡、相談がなされ、意思統一ができる それぞれの役割を把握し、突発的な状況に対して、適切な対応ができるように努めている 	<ul style="list-style-type: none"> 子ども一人ひとりへの関り、行動面について担任間で話し合い、共通の関りや保護者対応ができるよう気を付けた。 離乳食については保護者、栄養士、保育士で食材表を基に進み具合を確認し、個々に合わせて進めた。 危険を感じたりヒヤリハットした場面を伝え合い、気を配るよう心掛けた。・嘔吐処理や避難訓練など職員間で確認し行った。 同僚保育士の意見やアドバイスをしっかり聞きつつ、自分の意見や思いも持っておき、伝え合えるように努めた。 3歳未満児…着脱、排泄、食事の支援等を職員間で話し合い共通した関りをし、できるようになった事は子どもと一緒に喜び、明るい雰囲気の中で保育を進めていくようにした。連携して関わることが子どもの自信にも繋がった。 3歳未満児…日ごとに体調や機嫌がまちまちで生活リズムが掴みにくいので、職員間で相談、連携しながら保育した。 3歳以上児…個別対応が必要な子どもや全体活動に参加を拒んでいる子がいる場合は、全体活動を進める保育士と個別対応をする保育士とで役割分担し活動を進めることができた。 3歳以上児…一人ひとりへの関り、行動面について担任間で話し合いながら、保護者への伝え方や共通の関りが持てるよう気を付けた。
7 給食栄養士、調理員の自己評価	<ul style="list-style-type: none"> 給食は、子どもたちが発達していく上で、極めて大切なものであることを理解し、日常の業務を行なっている 業務上知りえた情報を、理由なく家族や友人に話さない 園長、保育士とのコミュニケーションが取れている 子どもが給食を楽しみだと感じるよう配慮している アレルギーのある子どもに対して、個別の状況に応じて適切な対応が取れている 乳児一人ひとりの育ちについて職員間で連携を取り、それぞれにあった離乳食をつくっている 子どもの様子を見たり、子どもや担任の話を聞く機会を設けている。・また、検食簿を参考にして献立や調理の工夫に反映している 厨房の設備等の安全点検を定期的に実施している 給食を作る際、健康や怪我をしないよう気をつけ、安全衛生に細心の注意をしている 厨房の清掃や整理整頓、換気、採光、室温に気をつける 	<ul style="list-style-type: none"> 職員間や子どもに対して明るい笑顔で思いやりのある言動を心掛けた。相手を尊重する気持ちを忘れないようにしたい。 保育園や家庭で野菜を避けて食べている姿が見られるので、給食 darüber、「野菜嫌いを克服するには」のテーマで、野菜嫌いになる理由や克服法を配信した。これからも、子どもが健やかに成長できるヒントをテーマに発信していきたい。 連絡アプリで「本日の給食」を配信するようにした。手作りおやつも掲載している。家庭でも給食について会話が進むよう働きかけていきたい。 三食食品群のパネルを活用し、年長児が献立の食材シール貼りに取り組んだ。献立名と食材や調理方法に関心を持てるように声掛けをしたので、食材の理解が深まった。 離乳食が始まった子どもの食事は、給食室、担任、家庭で、量や柔らかさ、子どもの体調等、連絡を取り合いながら進めた。 アレルギー児への給食は、事故がないよう確認、声掛けをしながら提供した。 子どもの健康状態や食事の進み具合、残食があった時の様子など担任に確認し、日誌や検食簿に記入し次に生かすようにした。個々に合った量で、食べられた事や苦手なものが少しでも食べられた事に自信を持てるように工夫した。 スチームコンベクションでの調理方法を再確認し、作業工程がスムーズにできるよう活用していきたい。 設備や器具の安全点検を定期的に行い日誌、点検簿を適切に記入している。故障など不具合が生じた際は、確認、園長に伝え、迅速に対処した。 手荒れをしないように気を付け、まめな手洗いをし食中毒や感染症の防止に努めた。 厨房の整理整頓を心掛けた。床を濡らさないように気を付けて作業していきたい。器具の消毒を丁寧に行った。

	自己評価の観点	主な自己点検の内容	保育の振り返り　自己評価
7	給食栄養士、調理員の自己評価	<ul style="list-style-type: none"> ・給食調理が衛生的かつ安全に行なわれるよう、中毒や感染症の防止に努めている ・複数調理員で調理の分担を確認し、共通理解して調理することができた 	<ul style="list-style-type: none"> ・気温が高い日は特に温度管理を注意し、食中毒予防、事故予防に努めた。 ・複数の調理員で作業しているので、打ち合わせの時間をしっかりと取っている。引き継ぎ、アレルギー、未摂取食材のチェックを怠らないように努めた。分からぬことや問題点があるときはその都度相談しあうようにした。 ・0歳児の途中入園児への離乳食、アレルギー対応食等、前日、具体的にミーティングし当日は、声出し確認で対処した。
8	園長、主任の自己評価	<ul style="list-style-type: none"> ・保育の基本 ・保育課程の編成 ・健康 安全管理 ・保護者支援 ・資質向上に向けた姿勢 	<ul style="list-style-type: none"> ・行事の在り方、職員会議の在り方、日誌の書き方、職員の勤務、休みの取り方等いろいろな角度から考え、少しずつ見直しを進めた。園内研修を通して、新しい保育内容についても提案しながら援助していきたい。 ・夏期の保育は、熱中症対策を考慮しながら活動した。運動会の練習期間も暑さが厳しかったので来年以降、時期や内容について、検討していく必要を感じた。 ・保護者連絡のアプリを導入し、紙媒体の連絡を減らすことができた。保護者の中には、慣れないためか連絡を確認できていないこともあるので声掛けをしている。今後は、各組でタブレットを管理し円滑に進められるようにしていきたい。 ・感染症の流行で0, 1歳児の学級閉鎖を行った。早めの対策と予防等で園全体での流行は抑えることができた。前回の感染予防対策措置を生かすことができた。 ・保護者からの相談や問い合わせがあった際は、誠実に対応するように心掛けた。 ・発達が気になる子や支援が必要な子が適切な養育支援が受けられるように保育園での様子を保護者と共有し、保健師、発達支援センター等、関係機関との連携を仰ぎ対応した。 ・保育計画、月案、日案等、これまでの様式にとらわれ過ぎずに、ICTの活用に向けて保育者と子どもにとってプラスになるように準備していきたい。